

- 1 初日さす大樹に梯子かけてあり
- 2 初風の交差点ゆく背広かな
- 3 すれ違ふ坊つちやん列車淑気満つ
- 4 読初のガリア戦記に大河あり
- 5 バンダナの子が駆けきたる恵方道
- 6 成人の日の靴墨のひかりかな
- 7 探梅のポケットにあるミントガム
- 8 春を待つ張子の虎の大きな目
- 9 流れゆく松ぼつくりに日脚伸ぶ
- 10 さるぼぼの大きな頭春立ちぬ
- 11 春寒し書架の奥なる「ゲバラ伝」
- 12 後ろから靴音バレンタインデー
- 13 くもりたるホルンを拭けば春の雪
- 14 うさぎの目ほどの木の実を植ゑにけり
- 15 恋猫と手鏡ほどの水たまり
- 16 橋をゆくキャンピングカー猫の恋
- 17 さざ波につづくさざ波春の風邪
- 18 かげろふへ短き橋を渡りけり
- 19 桃の日のテーブルクロス広げたる
- 20 初蝶と同じ日向に立ちゐたり
- 21 球場の真中に立てば揚雲雀
- 22 啓蟄の土嗅いでゐるブルドッグ
- 23 永き日の海のにほひの石ひとつ
- 24 少年を泣かす少年春の虹
- 25 豆の花独身寮のかたはらに

- 26 キューピーの眼の先のおぼろ月
- 27 履歴書は雲のあかるさ鳥交る
- 28 月の石より蛤に傷あまた
- 29 海みゆる珈琲店のヒヤシンス
- 30 パフェを食ふ男がひとり目借時
- 31 巢立鳥ひかりの粒を浴びゐたる
- 32 酒飲めぬ男に亀の鳴きにけり
- 33 わが顔の映るスプーン鳥の恋
- 34 アネモネと睡眠薬の紙袋
- 35 少年の遍路ホームに立ちゐたり
- 36 春愁の少しつめたき貝ぼたん
- 37 荷風忌のオムレツの黄は咲くごとし
- 38 校庭に茶山の光とどきたる
- 39 春惜しむ楽譜かかへてゐたる子と
- 40 夏立つや岩に置きたるモデルガン
- 41 五月来る森の中なる神学部
- 42 草矢打つ明石の海のまぶしさに
- 43 短夜やロシア映画に大き森
- 44 誰も見てゐず緑蔭のギターリスト
- 45 桜の実ローマのコインより小さき
- 46 独歩忌や土にしみゆく朝の雨
- 47 遙かより波の音して蟻地獄
- 48 カーテンの向うは夜やさくらんぼ
- 49 わが声の父に似たるよ蛍狩
- 50 松風に振り返りたる捕虫網

- 51 南風や星条旗立つレストラン
- 52 月見草小さき声の人とゐて
- 53 裸子の横のダックスフロントかな
- 54 毛虫焼く炎一枝に絡みけり
- 55 アメリカの地図を開いて端居かな
- 56 夜濯のしばらく草の波うてる
- 57 夕焼やマリア観音まで遠き
- 58 拾ひたる空蟬楽譜よりまぶし
- 59 悪友が欲し大海に雲の峰
- 60 かたはらに古きオカリナ夕涼み
- 61 箱庭の家の窓みな開いてをり
- 62 夕顔のかたはらの子に名をききし
- 63 海峡のひかりに開く落し文
- 64 街の音かすかにとどく水中花
- 65 噴水のまはりのひかり恋果てぬ
- 66 ただ遥かなり先生と夏の海
- 67 文書かぬ日のつづきたる金魚玉
- 68 ゆふぐれの風に色あり夏みかん
- 69 「異邦人」読む風死せる突堤に
- 70 天の川にはとり白きまま老いぬ
- 71 海鳥の白さのノート終戦日
- 72 マラソンのゴールに大樹初嵐
- 73 自画像のうすき口髭秋ともし
- 74 終点の灯に鬼の子の揺れやまず
- 75 ペン持たぬ日の秋蝶のまぶしさよ

- 76 コンビニに男入りゆく無月かな
- 77 長安の旅の話を月の客
- 78 嘶きのわが身つらぬく水の秋
- 79 雁鳴くや皆うつむいて夜の駅
- 80 台風の眼に立ちゐたる阿修羅像
- 81 もうピアノ弾かざる指に水澄めり
- 82 晴れ男きて蓮の実の飛びにけり
- 83 夜の海へ傾いてゐる案山子かな
- 84 開きたる手紙あたたか黄落期
- 85 絡み合ふやうな鳥声柿の空
- 86 木守柿みゆる机を拭きにけり
- 87 どんぐりとマルコポーロの旅行記と
- 88 ジオラマのビルの灯れる神の留守
- 89 街の音いつとき絶えし落葉かな
- 90 電車来る前のしづけき雪蛩
- 91 ヘッセの詩口ずさみつつ日向ぼこ
- 92 レシートレシートの裏に詩を書く時雨かな
- 93 風見鶏ほどのかがやき枯芒
- 94 狼の亡びし山に一礼す
- 95 指揮棒に新しき傷冬銀河
- 96 日輪の澄みて渡れる枯野かな
- 97 ライオンのたてがみ揺るる風邪心地
- 98 ポケットにきのふの手紙浮寝鳥
- 99 初雪の空を見てゐる神父かな
- 100 水鳥のかほの暮れゆく裕明忌